

## 市制100周年記念人づくり基金制度

熊本市では、平成元年の市制施行100周年を記念して、市民各層から寄せられた多額の浄財とふるさと創生資金をもとに「熊本市制100周年記念人づくり基金」を創設しました。

この人づくり基金は、来るべき21世紀に向けて、熊本市が更に飛躍・発展するために、様々な分野において指導者として活躍する、国際感覚を備えた創造性豊かな人材を育成す

ることを目的とし、

- 1 環境の保全と創造
- 2 国際交流
- 3 社会福祉
- 4 伝承文化の継承
- 5 その他

の各分野に積極的に貢献する個人・団体を対象に、平成3年度から毎年2回（前期2月、後期8月）の募集を行い、研修・研究活動等への援助



伝統的な織物  
肥後紬の復元  
（伝承文化部門）



スイス・フリプフル市において、リトグラフの研修

を実施しています。

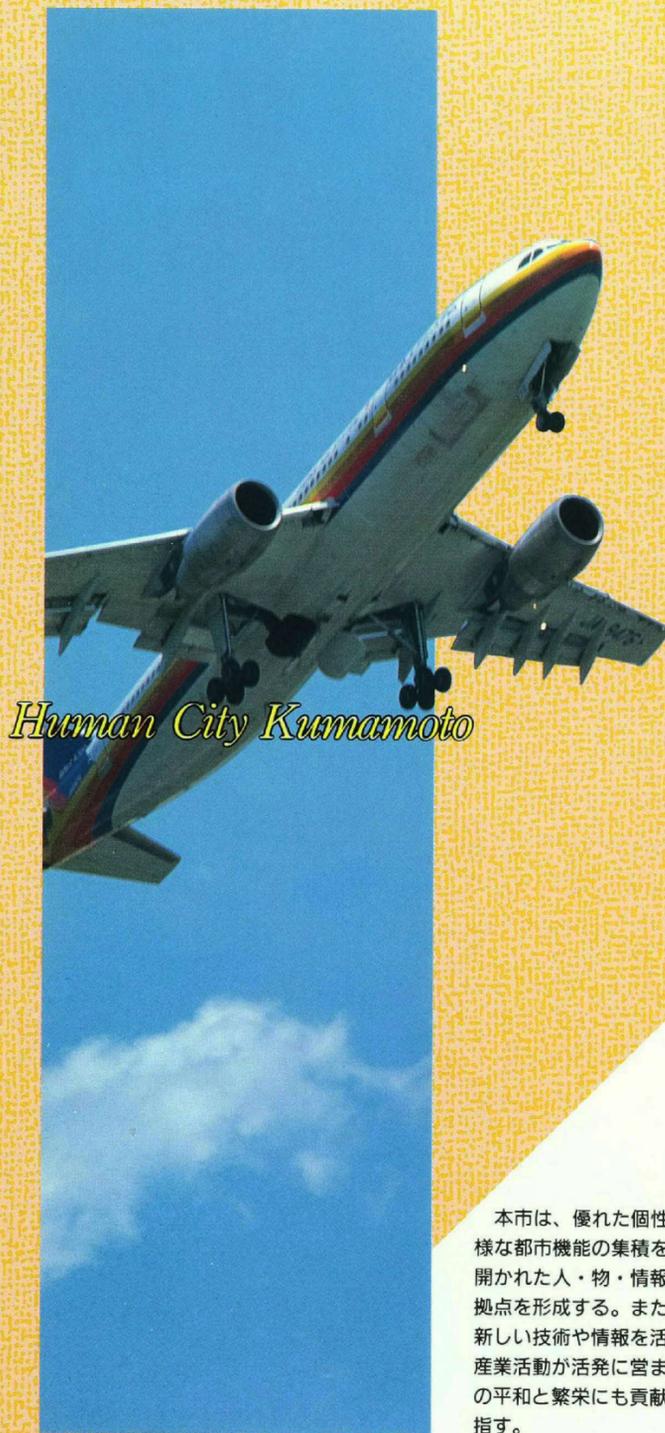
平成6年度には前後期合わせて34件の申し込みがあり、人づくり基金選定委員会における審議の結果、13件の個人の方々が援助を受け、様々な研修活動を行いました。

これまで77件の熱意ある個人・団体の方々が援助を受けられ、それぞれの分野で研鑽を積み、ふるさと熊本のため、素晴らしい活躍をされています。

●21世紀を担う人づくり

# 創造的な人づくり

HUMAN CITY  
KUMAMOTO



*Human City Kumamoto*

交流拠点都市を目指して  
活力あふれる

本市は、優れた個性を生かし、多様な都市機能の集積を図り、世界に開かれた人・物・情報の活発な交流拠点を形成する。また、未来を開く新しい技術や情報を活用し、多様な産業活動が活発に営まれ、国際社会の平和と繁栄にも貢献する都市を目指す。



海外との少年スポーツ交流



海外との少年スポーツ交流

世界に開かれた交流拠点都市を目指す本市は、中国・桂林市、アメリカ・サンアントニオ市、ドイツ・ハイデルベルク市と友好姉妹都市の盟約を結び、経済、文化、スポーツ、青少年交流等幅広い分野にわたり交流を続けています。

このような中で平成5年3月には、市民レベルの交流を進めるために(財)熊本市国際交流振興事業団を設立、平成6年9月には、将来にわたる国際交流活動の拠点となる熊本市国際交流会館がオープンしました。今後も友好姉妹都市をはじめ、諸外国との国際交流を幅広く推進するとともに、在熊外国人への情報提供、市民の国際交流活動の推進等国際化に

対応した様々な施策を積極的に展開してまいります。

友好姉妹都市締結年月日

桂林市……………

1979年(昭和54年)10月1日

サンアントニオ市……

1987年(昭和62年)12月28日

ハイデルベルク市

1992年(平成4年)5月19日

中国・桂林市

地理的にも近くて密接な関係にある中国、中でも桂林市とは昭和54年10月の友好都市締結以来、多方面にわたる活発な交流が続けられています。

平成6年度には桂林市から流通研修生、経済訪問団、医学研修生、芸能団、物産実演団等を迎えました。

また、本市からは第14回高校生訪問団を派遣するなど両市の相互理解と友情を一層深めました。

今後も幅広い分野での相互交流を予定しています。

米国・サンアントニオ市

昭和62年の姉妹都市締結以来、友好の輪が大きく広がる中、平成6年には動植物園内に西部開拓時代の民家であるサンアントニオパイオニアキャビンが完成しました。これはサンアントニオ市から両市の友好の証として贈られたもので、熊本市民にとってアメリカ文化の一端を伺い知ることのできる貴重な建物になって



います。

その他、高校生・大学生の交換留学や少年野球チームの派遣、熊本での物産展開催など様々な交流を通じ、より一層両市の絆が深まりました。

今後も経済、学術、スポーツ等多様な交流事業が予定されています。

ドイツ・ハイデルベルク市

平成4年5月、30年近くにわたり育まれてきた友情が実り、「平和と環境に対する共通の責任」を理念とする友好都市の盟約を結びました。

特に同市とは、医療・環境の分野で大きな交流実績を上げ、癌の世界的権威ムンク教授を迎えての講演会や医師・看護婦の相互派遣、さらに環境分野では、同市で開催されたOECD環境部会への参加が実現しました。また、青少年交流の分野においては、青少年交流訪問団の派遣、少年サッカー親善訪問団並びに青少年リーダー訪問団受入れなど活発な交流が行われました。

今後も引き続き、次代を担う青少年の交流をはじめとし、医療・環境等の分野で幅広い交流を進めます。

国際交流会館

平成6年9月1日に国際交流の拠点として建設を進めていた熊本市国際交流会館が開館しました。広々としたエントランスホール、市民や外

国人の方々の触れ合いや情報交換の場としての交流ラウンジ、姉妹都市コーナー、語学研修室他4か国語同時通訳可能なホール等を備えています。

この会館を中心に(財)熊本市国際交流振興事業団では、国際理解講座や市民友好の翼の派遣、ホストファミリーボランティア登録制度等市民の国際化を促進するとともに、在住

外国人の方々への相談コーナーの開設など多様な事業を展開しています。今後益々増加していく国内外のニーズに柔軟に対応していきます。



●開かれた交流拠点の形成

国際交流

HUMAN CITY KUMAMOTO



肥後54万石の城下町として栄えてきた本市は、東に「阿蘇くじゅう」西に「雲仙天草」の二つの国立公園を望み、九州国際観光ルートの要衝として国際色豊かな魅力ある都市へと変貌しつつあります。

「国際観光モデル地区」にも指定され、九州の中央に位置する一大観光拠点として年間500万人を越える観光客が訪れています。

#### 豊かな観光資源

豊かな水と緑に恵まれ歴史に彩られた本市には、日本三名城のひとつに数えられる「熊本城」をはじめ、清冽な地下水の湧く桃山式回遊庭園「水前寺成趣園」、細川ガラシャの眠る「立田自然公園」、剣聖宮本武蔵が兵法五輪の書を著した「霊巖洞」（五百羅漢）などの歴史的遺産、また、夏目漱石、小泉八雲、徳富蘇峰・蘆花の足跡などの文学的遺産が数多く残されています。さらに、江戸時代の貴重な上級武家屋敷を移築・復元した「旧細川刑部邸」や、豊かな自然と歴史・文化が残る金峰山一帯など多くの観光資源に恵まれています。

#### 観光シンボルゾーンの整備

熊本城を中心としたシンボルゾーンでは、長堀通りの景観整備、熊本城周遊バスの運行、景観にあわせた標識の整備、城内を5ヶ国語で案内する国際観光案内システム「武者ガイドくん」の導入などの整備を行っ

ています。また、ソフト面の整備として城内をきめ細かく案内するレディースガイドの導入など本市を代表する観光地としての整備を進めています。

#### 金峰山・有明海沿岸観光開発基本計画

金峰山から有明海にかけての豊かで雄大な自然を貴重な観光資源として、育成・活用を図りながら今後の産業振興の一環として、また本市の新たな観光の核として、自然環境に配慮した総合的な開発を推進しています。

具体的には、海洋資源の魅力を最大限に引き出し、有明海における海洋拠点とする海洋水族館や水産技術センター、合併を記念した記念公園、また有明海を眺望できるみかんの丘一帯を有効利用するため、みかんを核とした総合的な施設整備などです。

#### 広域観光ルート

九州観光の一体的振興・発展を図るため、九州の主要都市と連携し国内及び海外からの観光客誘致に努めています。「九州横断ルート」、「九州縦断ルート」などの広域観光ルートを通じて、九州観光モデルコースや本市の魅力や国の内外にPRしています。

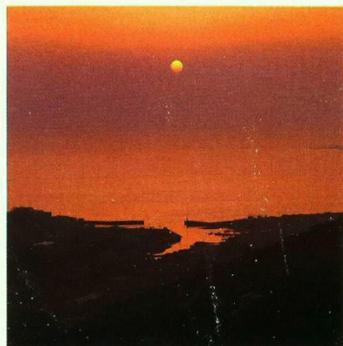
#### 観光人づくり

観光関連産業に従事する経営者から第一線で活躍する社員まで、ホテル・旅館・タクシーなど、各業界ごとに経営問題・人材育成・接客接遇等について研修し、受入体制や顧客

意識のより一層の充実を推進しています。

#### 国際観光の振興

外国人観光客の誘致及び受入体制の整備充実を図るため、香港での観光展参加をはじめ海外向けポスターやパンフレットの制作、来熊外国人への観光案内所や英文併記の案内板の設置、五ヶ国語対応の熊本城国際観光案内システム「武者ガイドくん」の導入など、世界に開かれた国際交流都市づくりを進めています。



河内港と河内温泉



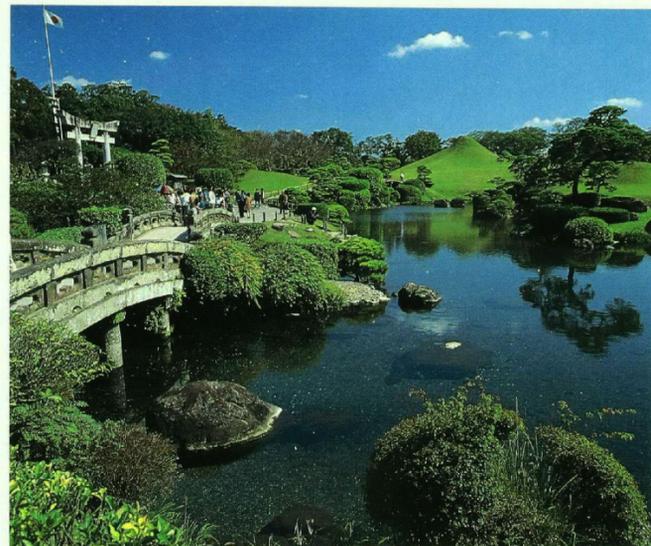
旧細川刑部邸



立田自然公園



熊本城



水前寺成趣園



熊本城周遊バス

長堀通り



#### コンベンションの振興

本市では、コンベンション誘致の実効を図るため平成3年11月に市・県・民間企業団体からの出捐をおおき財政基盤の充実した財団法人熊本国際コンベンション協会を設立し、国内外の各種学会・大会等の誘致支援事業等に取り組み、コンベンションの準備・企画段階から運営までの相談に応じています。支援体制の中では、特に市民ホスピタリティを活用するコンベンションボランティア制度の充実に力を入れています。

本市でのコンベンションの開催件数は、順調な伸びを示しており、中でも国際会議・全国大会の誘致活動を積極的に行っています。平成6年にはアジア初の国際会議「第15回国際神経放射線学会（40ヶ国1200人参加）」が開催されました。また、'97年の「第15回男子世界ハンドボール選手権大会」など多数の国際会議・全国大会等が熊本で開催されます。

●開かれた交流拠点の形成

## 観光・コンベンション

HUMAN CITY  
KUMAMOTO





夏目漱石旧居



オックス通り



峠の茶屋公園

### 流通業務団地

本市の卸売業、運輸業、倉庫業等の広域流通拠点施設として整備を進めていた流通団地は、平成4年9月に流通業務施設の建設が全て完了し、本市の広域流通拠点として地域経済の活性化に大きな役割を果たすことが期待されています。また、団地内には流通情報の発信拠点となる熊本市流通情報会館が平成元年4月にオープンし、セミナー・研修・経営相談等を通して、企業経営の近代化、合理化を支援しています。

さらに昭和62年に設立された第3セクターである㈱熊本流通情報センターの事業等により、広域流通ネットワークシステムの構築等を図り、中小企業の情報化を積極的に支援し

ています。

### 熊本流通情報センター

大都市圏と地方の情報格差を是正するため、通産省が昭和59年ニューメディア構想を提唱しました。

この構想は、全国的にバランスのとれた情報化及び地域コミュニティのニーズに即応した情報システムの構築と普及を目的としています。

熊本市は構想のモデル地域として国の指定を受け、その推進母体として国・県・市・民間の出資により㈱熊本流通情報センターが第三セクターとして設立されました。

㈱熊本流通情報センターのテーマは、「広域流通ネットワークシステム」の開発と情報化の推進です。

現在、小売業と卸売業の間を結ぶ

受発注オンラインシステムや、商店街の情報処理サービス及び流通関連のシステム開発を中心に事業を展開しています。

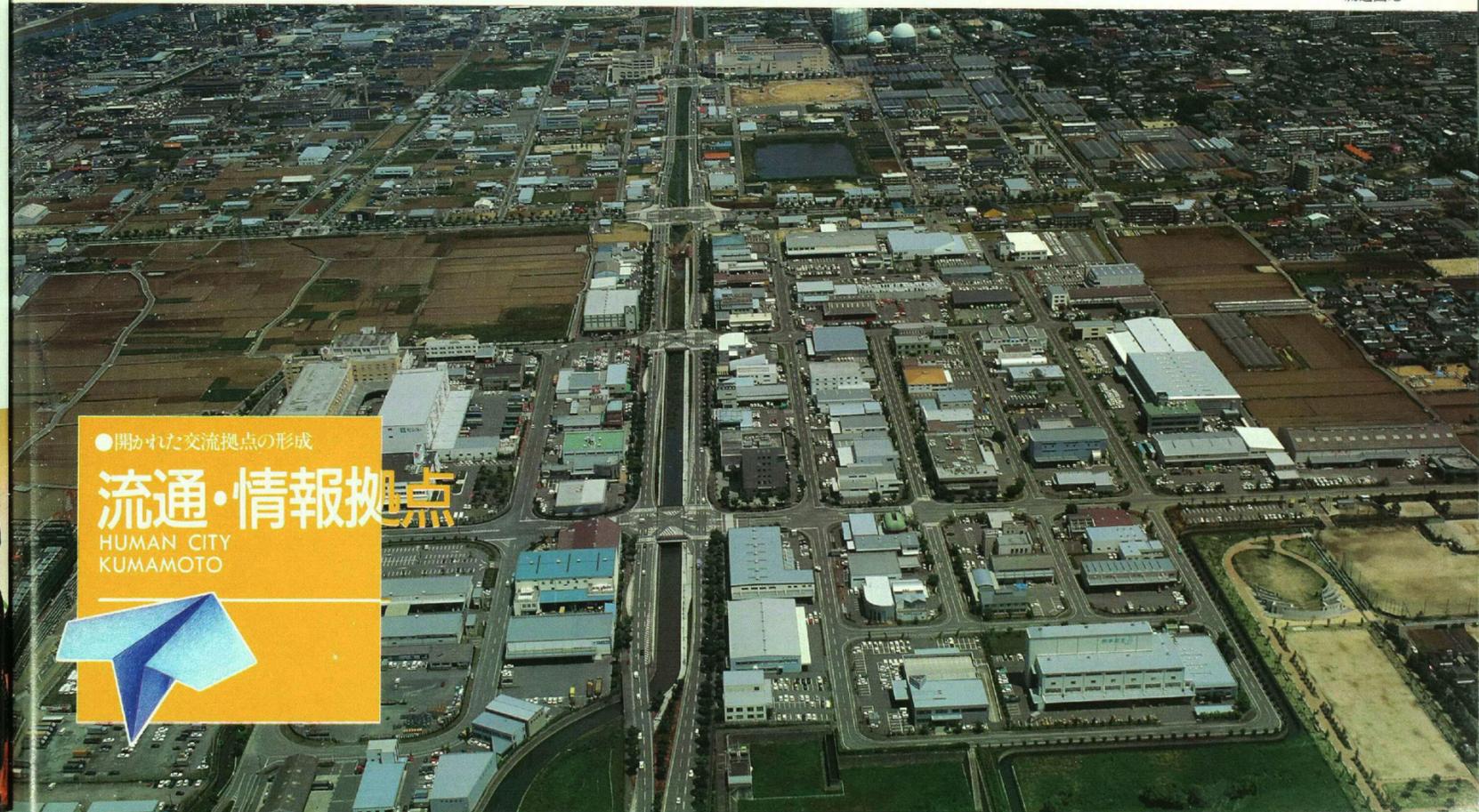
### テレトピア

熊本市は、昭和60年に、益城町と共に郵政省よりテレトピア構想のモデル地域の指定を受け、熊本情報案内システム（ローカルキャブテン）、熊本県健康管理システム、図書館情報ネットワークシステム、テクノポリス技術情報システム、熊本市総合情報システムの5つのシステムを構築しました。更に平成元年度には、ヒューマンコミュニティネットワークシステム（ケーブルテレビ）も新たに追加し、高度情報化社会に対応した地域情報化を推進しています。

この中で、ローカルキャブテンは、公的施設を中心として、広域に公衆端末機を設置し、観光情報、コミュニティ情報などを提供しています。又、ケーブルテレビは、受信可能エリアが60,000世帯、加入世帯が8,200世帯に増え、将来、双方向性の特徴を生かした活用により、医療、福祉、防災、教育など、多分野にわたって市民生活の質的向上に貢献する事が期待されています。

今後さらに、21世紀に向けて光ファイバ網が張り巡らされるマルチメディア社会の到来が予想される中で、情報拠点都市として、テレトピア構想の一層の推進を図り、活力あふれる街づくりをめざしています。

流通団地



●開かれた交流拠点の形成

# 流通・情報拠点

HUMAN CITY  
KUMAMOTO



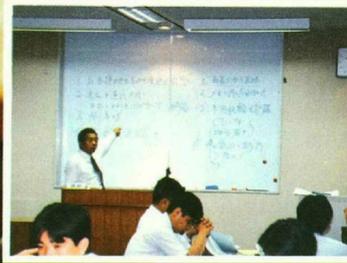
燃えるくまもと  
**火の国まつり**

8月11日から13日までの3日間、暑い熊本の真夏を一層熱く燃えさせたせる“火の国まつり”。

まつりのハイライトは、なんといっても12日の「おてもやん総おどり」おなじみのメロディーのおてもやんと激しいサンバおてもやんのリズムが街中に響きわたり、真夏の夜の熱気を盛りあげます。フィナーレの花火大会までたのしい催しがいっぱいです。

県外の観光客や外国人、九州各市からのおどり隊も参加する今や国際色豊かな市民総参加の夏まつりです。





総通信会館での研修

本市の中小企業は、全事業所の約99%、従業員で80%以上を占めており、本市地域経済の活性化を図る上で中小企業の振興は重要な課題であります。

しかしながら、近年の中小企業を取り巻く環境は情報化・国際化の進展、技術革新、さらには規制緩和、低価格化等、大きく変化しています。このため、経営基盤の弱い中小企業の経営力の強化、人材の育成、マーケティング機能の強化、さらには技術開発力の向上などの支援策が必要となっています。

そこで、本市では中小企業が自らの持つ経営の柔軟性・創造性や機動性を発揮し、多様化する市場ニーズに的確に対応した企業活動が営めるよう①経営力の強化、②産業基盤の整備、③資金調達の内円化、④地場リーディング産業の振興、⑤人材の確保・育成という5つの中小企業振興施策にそって各種事業を積極的に展開しています。

#### 中心商業地の振興

本市の上通・下通・新市街等の中心商業地は県内最大の広域商業拠点となっていますが、近年の消費者ニーズの高度化・多様化、ライフスタイルの変化等により商店街に求められる機能も多様化してきました。そこで関係機関や地元商店街と連携を

とりながら、アーケード・駐車場・駐輪場・道路環境整備等、施設整備の助成を実施し、商業環境整備を推進し、さらにファッションタウン構想の導入等により魅力ある商店街づくりを積極的に進めています。

#### 地区・近隣商店街の振興

地区・近隣商店街は市民の日常生

活に欠かせないものであり、地域コミュニティの核となる場でもあります。

また、地域特性を活かしたまちづくりという観点からも、地区・近隣商店街の果たすべき役割は非常に大きいといえます。

このような考え方から、本年、健

軍地区には、ホール・集会場・ギャラリー等を有する文化施設を商店街振興の拠点施設としてオープンしました。

また、平成4年度から商店街活性化のためのイベント開催補助等、ソフト事業に対する支援を実施しています。



健軍文化ホール

●活力ある産業活動の展開

## 中小企業

HUMAN CITY  
KUMAMOTO



肥後象眼の製作風景

●活力ある産業活動の展開

## 魅力ある商店街

HUMAN CITY  
KUMAMOTO



本市の工業は、その多くが中小企業であり、食品工業を中心に出版・印刷、金属製品、衣服、家具等都市生活と関連の深い工業が大きなウエイトを占めています。

したがって、この中小企業の活躍が地域経済の活性化を図る上で重要な役割を担っています。

そこで、中小企業の振興を支援し、活力ある産業活動の展開を図るため次の施策を推進しています。

### 1. 経営力の強化

経営資源に限りのある中小工業を支援するため、地域のマーケティング情報・各種データベース情報の提供、経営相談・診断指導、経営セミナー等を実施しています。

また中小企業の共同化を推進するため、業界との共催事業、設備近代化及び組織化・高度化事業に対して支援をします。

### 2. 地場リーディング工業の振興

本市において集積が高く他の産業との強い関連を持つ食品、出版・印刷産業を地場リーディング産業と位置付け発展育成を図るため、業界別の組織活性化研究会などを開催しています。

また、中小工業の振興には、地元の方々に地場の優れた製品をご愛用いただくことが重要です。そこで、市民及び関係業界の方々に地場の製品を紹介し利用いただくため、各種

フェアの開催・参加、物産振興事業などを実施しています。

### 3. 工業立地環境の整備・改善

活力ある生産基盤の整備を目指し

て、周囲の環境と調和した開放的なガーデンファクトリーパーク（食品工業団地）づくりを推進しています。

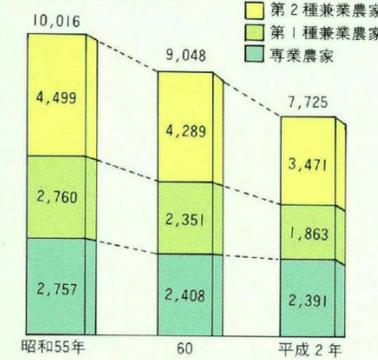
### ■製造業の業種別構成割合

(平成5年12月31日)

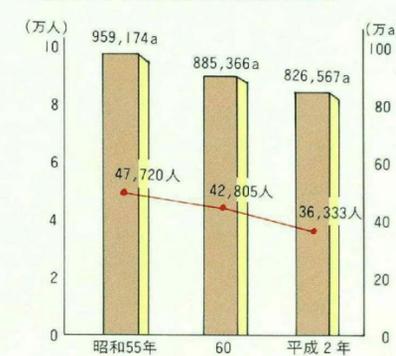


食品製造工場（フーズタウン）

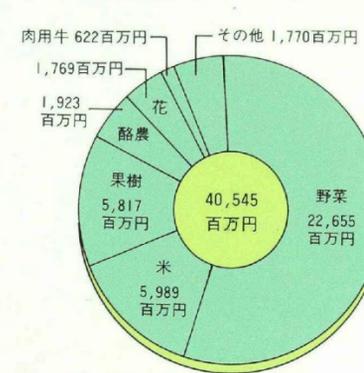
### ■農家戸数の推移



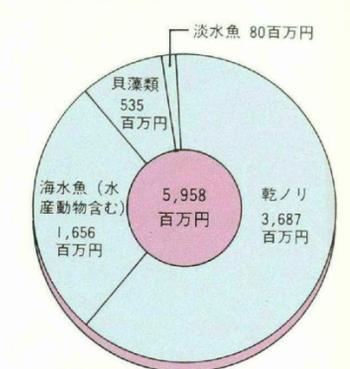
### ■農家人口と経営耕地面積の推移



### ■農業生産額 (平成5年度)



### ■漁業生産額 (平成5年度)



トマトの収穫

### ●活力ある産業活動の展開

## 農林水産業

HUMAN CITY KUMAMOTO



のりの採採

本市の農林水産業は、北西部の中山間樹園地帯、西・南部の水田地帯、北・東部の畑地帯からなり、野菜、米をはじめ果樹、花き、畜産などの豊富な基幹作物を有した農業と有明海沿岸におけるノリ、魚介類等の海産物に加え、地下水を利用した錦鯉等の水産業からなっています。

いずれも立地的優位性、地域性を活かした特色ある経営が行われ、農・漁業粗生産額は、県下最大となっております。

しかしながら、平成6年には未曾有の干ばつに見舞われ、果樹を中心に大きな影響を受け大変厳しい環境におかれています。

また、水産業は、気象、海況の影響を受け漁業者の減少、高齢化、価格の低迷などの問題を抱えています。

このような中で、経営の自立安定と国際化社会に対応できる先進的な農・水産業としての高生産性農・漁業、高付加価値農・漁業の実現に向け、土地基盤、漁港、漁場の整備、意欲ある農・漁業者の育成、農・漁業の技術革新、生活環境の整備など新たな時代に対応できる魅力ある都市農業・水産業の振興を図っています。

### ●活力ある産業活動の展開

## 工業

HUMAN CITY KUMAMOTO

